

# 胃ろうへの誤解

おなかに開けた小さな穴から胃へ栄養を注入する「胃ろう」。最近では終末期医療との関連でマイナスイメージが広がり、回復が期待できるケースで患者や家族が拒否する例も増えている。鼻のチューブや点滴にすると、かえって本人の苦痛が大きい。各種の栄養補給法への正しい理解が必要だ。

胃ろうを造っても、ノドに問題がなければ、口から食べる訓練をしてよい。リハビリで食べる機能が回復すれば、胃ろうを外せることもある。

奈良県五條市の大谷浪代さん(99)も、その一人だ。3年前に脳梗塞で倒れた。右半身がまひし、のみこみの障害も出た。搬送された病院では、鼻腔チューブからの栄養。鼻のチューブは不快感が

# 探

大谷さん(右)は、食べる機能が回復し、今は胃ろうを外して普通食を食べている(奈良県五條市)



## 期待も回復少なく苦痛

あり、自分で抜いてしまったため、動く左手にミトンをはめられた。「再び食べるのは無理でしょう」と言われた。

3週間後に転院した県立五條病院で、勧められて胃ろうを造った。1か月間、食べる訓練を続け、その後、リハビリ専門病院で半年、口からの食事を併用した。発病の1年後には胃ろうを外した。

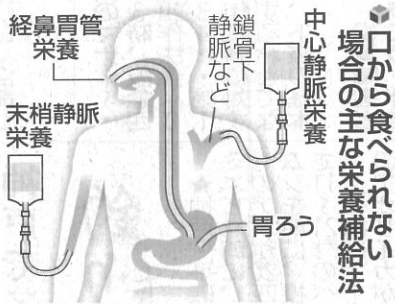
今は平日は介護施設に滞在し、土日は自宅に戻って普通の食事を食べている。ハンバーグやウナギが好物だ。発語は不自由だが、相手の話は理解できている。「これだけ回復したのは、胃ろうを利用したおかげ」と家族は話す。

五條病院では、摂食・嚥下チームがリハビリに力を入れている。担当する堀内葉月医師は「胃ろうで栄養状態が改善すれば、食べる意欲がわき、

口やノドの筋力もつく。単に胃ろうを造るだけでなく、食べる訓練をしっかりやるのが大切だ」と強調する。

口から食べられない患者への栄養補給法は主に4種類ある。日本静脈経腸栄養学会のガイドライン(指針)が示している考え方は、こうだ。

腸から栄養を吸収できる場合は、胃や腸へ栄養剤を届けるのが基本。補給期間が4週



### 主な栄養補給法の特徴

| 条件          | 期間目安  | 方法     | 主な利点            | 主な欠点                                       |
|-------------|-------|--------|-----------------|--|
| 腸から栄養を吸収できる | 4週間未満 | 経鼻胃管栄養 | 技術的に比較的容易で、安価   | 不快感があり、自己抜去を防ぐためにミトン着用が必要。訓練しにくい           |
|             | 4週間以上 | 胃ろう    | 栄養補給が安定。不快感が少ない | 造設時にトラブルの可能性。心理的な抵抗感                       |
| 胃腸が安全に使えない  | 2週間未満 | 末梢静脈栄養 | 管理が簡単で、併症が少ない   | 血管に痛み。投与時に行動が制限され、栄養補給量が限られる               |
|             | 2週間以上 | 中心静脈栄養 | 高カロリー栄養補給ができる   | 挿入時のトラブルや感染性の危険性。行動が制限され、拘束につながることも。医療費が高い |

### 口から食べられない場合の主な栄養補給法

間未満なら経鼻胃管(鼻腔チューブ)、4週間以上の見込みなら胃ろうがよい。腸が使えない場合は、血管に点滴で栄養を入れる。期間が2週間未満なら腕などの末梢静脈、2週間以上なら胸などの中心静脈から注入する。

このうち鼻腔、末梢静脈は本人の不快感や苦痛が大きい。自分でチューブを抜くことがよくあり、それを防ぐために身体拘束されることも多い。中心静脈栄養は長引くと感染のリスクが高くなる。もともと、そうした短所のない胃ろうがごっちゃにな

り、過剰な拒否反応が起きて「絶対イヤだ」という患者もいる。多くの病院では主治医が栄養療法に詳しくないため、世間の否定的イメージに影響され、胃ろうを積極的に勧めない傾向も生じている。一方、療養型の病院では患者の状態によって診療報酬が違ってくる。「家族の意向に乗っかる形で、胃ろうより、入院料の高い中心静脈栄養にする病院が増えている」と大阪の民間病院院長は明かす。

### 栄養補給 適切な方法で

かつては患者が食べられなくなると、病院は胃ろうをどんどん造る傾向があった。その結果、寝たきりで意思疎通できず、死期の近づいた高齢者に栄養補給を続けるケースも増え、尊厳を損なうのではという意見が出てきた。

日本老年医学会は昨年1月にまとめた終末期医療に関する「立場表明」の中で「治療の差し控えや撤退も選択肢」とした。それと前後して、終

末期の胃ろうの是非をめぐる報道が相次いだ。それらが「何となく胃ろうは良くないみたいだ」という印象をもたらした。終末期以外にまで影響を及ぼしているようだ。「胃ろうが適するのに鼻腔や点滴にするのは、ゆゆしき問題。胃ろうが良いか悪いかではなく、栄養補給をするなら最適な方法を選ぶことが肝心だ」。静脈経腸栄養学会のガイドライン作成委員長を務めた井上善文・大阪大学特任

編集委員 原昌平

## トイレ・食事…避難所で困難

# 視覚障害者次代へ教訓

香川県琴平町にある県立琴

平高のボランティア同好会

「とらすとK」(34人)は、

宮城県石巻、気仙沼両市の被

災者約50人と文通を続けてい

ます。部長で3年の前田

安友実さん(17)はこの夏、5

## 被災者と文通 心通う

うからです。

やりとりは1か月に1程度

度。文通を続けるうちに、「被

「金比羅船々」を一緒に歌い

ました。

その前後に文通相手を訪ね

て回ったのですが、前田さん

は最初、「ちよっぴりひるむ

自分を感じていた」と言いま

す。気仙沼市に一人で暮らす